

令和3年度
第1回 大館市木材利用推進会議

会議録

日時：令和3年10月8日（金）15時～16時

会場：大館市役所 402会議室

令和3年10月8日 第1回 大館市木材利用推進会議 出席者名簿

区 分	所 属	職 名	氏 名
委員長	産業部	部長	日景 浩樹
副委員長	建設部	部長	齋藤 和彦
委員	総務部	部長	阿部 稔
委員	市民部	部長	成田 学
委員	福祉部	部長	菅原 弥生
委員	観光交流スポーツ部	部長	(欠席)
委員	教育委員会	次長	石田 一雄
アドバイザー	秋田県立大学木材高度加工研究所	所長	高田 克彦
	市民部市民課	主幹	桂田 中
	観光交流スポーツ部観光課	課長補佐	小八木 歩
	消防本部消防総務課	課長補佐	若松 清勇
事務局	産業部林政課	課長	古川 泰幸
	産業部林政課	課長補佐	小棚木 信晴
	産業部林政課木材産業係	係長	北林 諭
	産業部林政課木材産業係	主査	大高 尚吾
	産業部林政課木材産業係	主任主事	千葉 泰生
	建設部都市計画課営繕係	係長	久保田 武人
	建設部都市計画課営繕係	主任主事	鳥潟 昂秀

1 開会 委員長あいさつ

＜日景委員長（産業部長）＞

- ・3月に大館市木材利用促進計画を作成。市が率先して公共建築物の木材利用を推進すると共に、民間団体の協力を得ながら地元産材の利用促進を図ることが目的。6月に木材利用促進法の改正により民間建築物を含めた木材利用促進が期待される。
- ・大館市木材利用促進計画の取組状況について報告し、令和4年度以降に整備が予定されている公共建築物への木材利用について意見を伺いたい。

2 大館市木材利用促進計画の取組状況について

① 市産・県産スギ材の材料調達に関する調査結果について

＜事務局（北林、千葉）＞

- ・資料1に沿って説明。

＜成田委員（市民部長）＞

- ・木材サプライチェーンとはどの程度の規模をイメージしているのか。

＜事務局（千葉）＞

- ・市の山林から供給される木材を地元で使うという観点になるので、基本的に市内を考えている。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

- ・スギは横架材としてマツに比べて強度値が低い。対応の方法は2つあり、1つ目は同一断面の集成材として外装にマツを貼り、ハイブリッドにする方法と、2つ目の方法はスギのみで梁の上端から下端までの高さを高くする方法が考えられるが、設計の段階から家の造りを変える必要がある。大館市の目指す将来像に近づけるため、サプライチェーンを考えると山から製材所まで考えているところに工務店や設計士を巻き込むことが大切である。

② 「地域内エコシステム」モデル構築事業について

＜日景委員（産業部長）＞

- ・公共施設への木質バイオマス利用の導入基準とは全ての施設でバイオマスボイラーを導入する基準か。

＜事務局（千葉）＞

- ・無理してすべての施設で導入しなければならない状況になるのは大変。導入基準に満たない施設は最初から検討しなくてよいような基準を設けたい。条件にあう施設は検討するというイメージで考えている。

＜日景委員（産業部長）＞

- ・比較検討の考えはあるのか。

＜事務局（千葉）＞

- ・施設更新を考えるとときに現場が混乱しないように、「地域内エコシステム」モデル

構築事業で比較検討に必要な基準を検討していきたい。

＜日景委員（産業部長）＞

・運用方針を考えているのか。

＜事務局（千葉）＞

・運用方針までは考えていない。施設規模などをふまえて考えている。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・ボイラーの更新は毎年あるわけではなく、木質系に変えるときに心配なのはコスト。判断基準として中長期的なコストの考え方を示すとよい。

＜阿部委員（総務部長）＞

・公共施設はコストの面が問題となる。補助事業を組み合わせながらコストも長期スパンで考える必要がある。安定した安価な木材の供給体制、サプライチェーンまで踏み込んでいかないと計画を立てるにも難しいところがある。カーボンニュートラルを進めていきたいが、現実にはコスト面の課題がある。

② その他取組状況

なし

3 令和4年度以降の木材利用促進計画に基づく公共建築物の整備について

＜事務局（北林）、各担当課＞

・資料2に沿って説明。

① 大館市消防署北分署（消防本部消防総務課）

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・木材、木質化は適材適所で組み合わせて使用するとよい。CLTは重いので、床材として使うより耐力壁として使うとよい。大館市にはCLTの工場があるので使ってほしい。消防署は市民生活を守る重要な施設であり、その施設が木材を使用することは大館市のプレゼンスがあがり、ストーリー的によい。

＜阿部委員（総務部長）＞

・庁舎は木造、車庫はその他の構造などいろいろな考え方があるが、高田アドバイザーの意見を伺いたい。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・設計の仕方には様々な方法があり、木材の使用は設計士の裁量による。消防署なら居住スペースに木材を使うことでよい職場環境につながると思う。

＜石田委員（教育次長）＞

・比内ドリームセンター（比内地鶏糞処理施設）は木造だが、柱と柱の間隔が狭くなるなど作業効率を考えた設計になっていない。消防署建設の際は「消防署の目的」を達成することを念頭におきながら、木材利用について検討してほしい。

＜日景委員（産業部長）＞

・国の流れとして、低層木造構築物から高層建築物への転換、木材利用促進法の改正

により公共建築物から民間建築物へと促進の範囲が広がった。北分署建設予定地は国道7号線から見えるため、民間建築物への波及も考えると、木造で建築してほしい。

＜齋藤委員（建設部長）＞

・車庫部分はハイブリッド構造にし、強度は鉄骨でもたせながら、一部の集成材を使用することが建築コストと耐用年数を考えると一番良い選択肢になると思う。消防施設に構造材として木材を使用することは簡単ではないが、いろいろ工夫して実施設計のほうで考えていきたい。

② 大館市斎場（市民部市民課）

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・炉など火を使用する場所として配慮があると感じた。待合室など暖かみのある空間にするために木材を使うことはよい取り組みだと感じた。

＜成田委員（市民部長）＞

・地元からは煙が見えないようにと要望がある。ペレットボイラーの煙について危惧している。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・オーストリアでは燃焼効率の高いペレットボイラーがあるが、日本製はそこまで至っていない。ペレットボイラーの機種選定での対応や煙除去装置の設置による対応が考えられる。

＜日景委員（産業部長）＞

・木材を使えないのは、火葬炉の部分だけか。

＜市民課＞

・なるべく木材を多く利用したい。木材利用、強度なども含めてプロポーザルの業者選定基準の評価で検討したい。

＜齋藤委員（建設部長）＞

・プロポーザルでは木材使用の予想が難しいので、仕様書の方で木材使用量を定めるようなことを市民課と相談して進めていきたい。

③ 野遊びSDGs推進事業宿泊施設（観光交流スポーツ部観光課）

＜日景委員（産業部長）＞

・五色湖ロッジ1階の改修部分はどこか。

＜観光課＞

・入口はダム湖側に移動する。入口側はウッドデッキを設置し、スタイリッシュな形で考えている。

＜齋藤委員（建設部長）＞

・トレーラーハウスは車検使用になるのか。冬期間、宿泊したいニーズと冬季の維持管理のどちらを優先するのかをしっかりと考えてほしい。確認申請の件だけでなく、維

持管理についても観光課と相談して進めていきたい。

＜観光課＞

・トレーラーハウスの既製品の関係で、建築基準法の件も含めて今月中に基本構想を策定する予定である。

＜阿部委員（総務部長）＞

・外で使用されるスギ、ヒノキの部材は強度的にどのような問題があるか高田アドバイザーに伺いたい。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・強度というよりは天候によるところが大きい。木材は何も処理せずに置いておくと腐る。木材は濡れることと乾くことの繰り返しに弱い。それは樹種によらず木材全般の話である。木材を使うときは防腐処理するなどメンテナンスが必要である。

全体を通して

＜阿部委員（総務部長）＞

・林政課の方針として、スギを伐採した後にスギを植えるのか、木材利用はスギだけに限らないというイメージで捉えているのか。

＜事務局（千葉）＞

・大館市の人工林の大半はスギであり、植生しているスギの利用を促進していく。しかし、木材の需要は様々であり、スギだけでは渋谷区等の川下の木材需要に对应していくことができない。大館北秋田林業成長産業化協議会では早生樹を試験的に植生しており、今後は木材需要に对应される山づくりを進めていきたい。来年度、策定を予定している大館市森林整備計画では木材利用を見据えた森林の整備を考えていきたい。

～閉会～

第1回 大館市木材利用推進会議(令和3年10月8日)

